

清水園芸とフリージア

上西だより

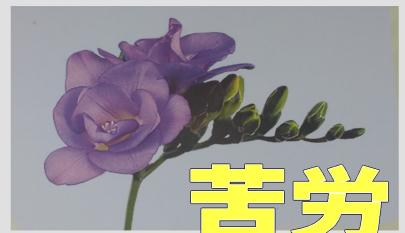
～上西校区集落支援員だより～

西之表市地域支援課
上西集落支援員
馬場 信一 編集
連絡先090-9579-3953
上西校区長責任発行



歴史

清水園芸（株）はフリージアの球根生産が日本一であることは知っていましたが、そこに至るまでにどんな努力があったのか、上西伊勢神社の階段179段を上り、神社の隣に位置する清水園芸（株）社長の清水二郎さんを訪ねました。



苦労

それまで一農家としてミカンとタンカンを作っていましたが、台風などで収穫が一定せず、父が38歳のときにフリージア一本で行こうと決めました。

なぜフリージアに決めたのかというところ。父は本が好きで、よく読書していました。また、新しいものに興味を持っていました。

ある日、次にどんな作物を作ろうかと父が地球儀を回していたら、南北の違いはあるものの種子島と緯度が同じ30度で気候が似ている南アフリカに注目しました。「よし、南アフリカに行こう！」そこではフリージアの原種が見つかりました。

父は「フリージアを輸入するには花の大国オランダに行きべきだ」と決心。オランダの種苗会社と交渉してフリージアの球根を種子島に輸入し、栽培すると、うまく根付きました。始めてみるととても忙しくなり、人手を増やして会社を立ち上げました。

コロナの影響で冠婚葬祭が減り、フリージアに限らず切り花が以前ほどは売れなくなりました。しかし球根栽培と販売は経営の中核ですので、事業を強化します。

今、全国・世界中でブームになっているのがブロッコリー。ブロッコリーは連作ができるんです。畑の確保がたいへんですが、

将来

それだけの価値はあると思っています。

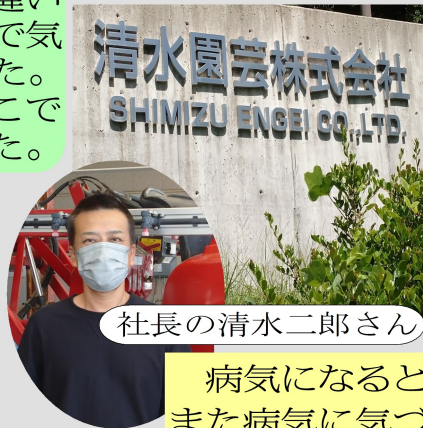


ブロッコリーの花

インフィオラータとは花びらを地面に敷きつめて表現する手法です。取材時、校区の活性化が話題になりますと社長さんから「球根なら無償で提供できますよ。インフィオラータより球根を植えて花を咲かせる活動の方が、幅が広がるんじゃないでしょうか」と助言をいただきました。

フリージアは元々、八丈島で栽培されたのですが土地が狭く、連作ができないのです。次に沖永良部島でも試したのですが、うまくいかなかったと聞きました。

連作はできなくても栽培可能な広い畑がある種子島にフリージアは合いました。しかも気候、土壌も。ただ、連作ができないので、より多くの畑を借りる必要があり、看板を立てて畑の貸与を地元の人に呼びかけています。



社長の清水二郎さん

他の植物も同じですが、フリージアはウイルスが花を枯らします。ベテランの方にそれを見極めてもらい、徹底して病気の花を摘む作業が必要です。それがたいへんです。

なにしろ畑が広いので。病気になると球根の品質が下がります。また病気に気づかないままにしておくと、伝染してしまいます。品質保持が一番です。

球根栽培のために花を切り捨てるので、花の活用方法は何かないか調べてやってみてください。ドライフラワー、プリザーブドフラワー、香料…。どれも採算が合わず、断念しました。

ある学校の卒業式でフリージアの花を贈ったことがありました。皆さん、いい活用方法があったら教えてください。（清水）

活用例



インフィオラータ「神戸タワー」